

も や い

第51号

発行所 三苦校区人権尊重推進協議会

事務局 三苦公民館 TEL 092-606-4511
印刷所 社会福祉法人 福岡コロニー

手をつなぎ みんなで歩もう 人権のまち



三苦校区人権尊重推進協議会

令和7年5月10日(土)、「三苦校区人権尊重推進協議会研修会・総会」が開催されました。

【総会】

- ・令和6年度事業報告・収支決算報告、令和7年度役員委嘱・事業計画・収支予算が承認されました。
- ・本年度の主な事業

研修部

- ・多文化交流会「インドネシア、フィリピン」(4月13日)
- ・人権コンサート「手笛」(5月31日)
- ・和白・奈多・三苦校区合同
「人権講演会」&「monさんコンサート」(10月19日)
- ・人権コンサート「ハープ&ギター」(令和8年2月8日)

啓発部

- ・標語・ポスターの募集(三苦小学校)
- ・啓発グッズの制作・配布

広報部

- ・人尊協だより「もやい」第51号(10月)、第52号(3月)の発行

【研修会】



佐々木 賢氏

東区生涯学習
推進課の佐々木
賢氏により「と
もに輝ける社会
をめざして～ヤ
ングケアラーと
子どもの人権～」と

題して講演をいただきました。

講演は、まず、ヤングケアラーに関するビデオ「夕焼け」を鑑賞、その後佐々木氏がコメントを加えるという形で進められました。

「夕焼け」：A子は中学生、母親は働きながら病弱な父の介護も、従ってA子が買物・炊事・洗濯等の家事全般、さらに幼稚園児の弟の面倒まで見ている。そのため、友達付き合いどころか、勉強もあまりできない日常である。A子は家族のことは自分がやらなければと、大丈夫でないのに大丈夫な振りをし、

ともに輝ける
社会をめざして

人に助けてとは言えない。そこに現れたのが、A子の元教師B氏で、今は祖母の介護のために教師を辞めている。B氏もまた、介護のことは社会から評価してもらえないと思いつつも、ソーシャルワーカーとの出会いで、カフェで勉強を教えることになった。A子はここで勉強、自信を取り戻す。

そして、以前A子が夕焼けを見て翌日の天気を言い当てていたことから、B氏がA子を「夕焼け博士」と呼んだ時のA子の笑顔が印象的でした。

最後に佐々木氏から、子どもたちには「大人に頼ってもいいんだ」との受援力が大事で、我々大人にとっては、子どもたちにどう向き合うのか、子どもの変化に気づくこと、話を聞くだけでも子どもは安心すると指摘、話を結ばれました。

三苦小学校 6年生

人権標語

大丈夫
ほめられなくても
君は君飛永
結莉一言で
相手の心
きずつける坂本
勇いじめはね
かなしくなるよ
みんながね団野
千鶴大丈夫
みんながつて
当たり前荒木
美憂友達の
気持ち考え
思いやり堺
瀬波やめようよ
それって相手
うれしいの？

吉原こうき

ありがとう
言われてうれしい
宝物大隈
心温差別なし
優しい世界を
作ろうよ畑田
唯菜次こそは
とどけ私の
S O S上村
知可あなたはね
一人じゃないよ
大丈夫関
優依奈命とは
金では買えぬ
宝物藤原
和樹もどれない
言ってしまった
あの言葉小笹
陽葵心から
伝える気持ち
ありがとう富田
杏奈いやなこと
はつきりと言おう
それやめて井上
七海

『自己肯定感が高まる子どもたちに』

三苦小学校 校長
佐伯修一郎 氏

三苦小学校では、「自分の良さを知り、友達との違いを認め合う児童の育成」を目指して日々教育活動に取り組んでいます。

子どもたちには、「自己肯定感」を高めてほしいと思っています。この「自己肯定感」とは、自分の得意なことも、苦手なことも含めて、自分を認め、好きになるということです。

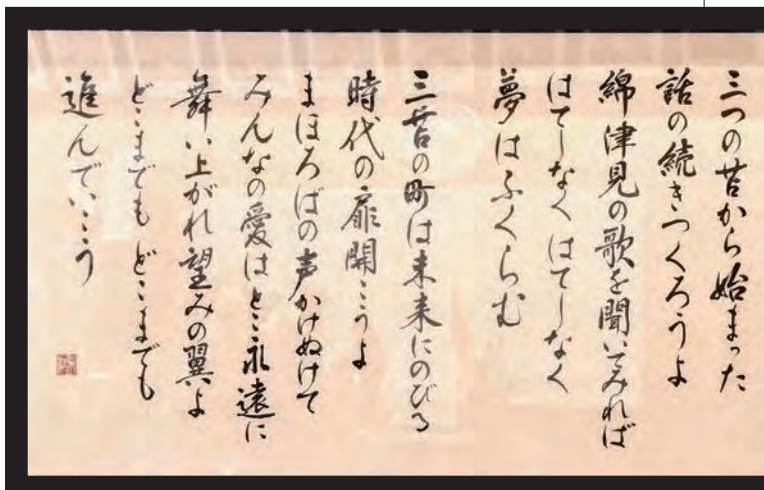
三苦小学校では、子どもたちが自分だけでなく、友達との違いも認め合えるようにするために、2つの取組をしています。

1つ目は、「ハッピーカード」です。友達からしてもらって嬉しかったことなどをカードに記入し、ハッピーボックスに入れます。そして、全校放送で紹介されます。カードを書いた子も、書かれた子もとても嬉しそうな表情をしています。この取組は、十年以上前から、和白中学校で始まった取組を三苦小学校でも行うようになったと聞いています。今でも和

白中学校の生徒が作曲した音楽をBGMとしてハッピーカードが紹介されています。

2つ目は、「ありがとうメダル」です。子どもたちの行動に対して、先生達がありがとうメダルのカードを配付しています。もらったメダルは、各教室で画用紙に貼ってクラスで貯めていきます。子どもたちの頑張る姿が可視化されていきます。

最後に、子どもたちの自己肯定感を高める最大の秘訣は、ご家庭での保護者の皆様からの賞賛です。ぜひ、ご家庭でも、お子様をたっぷり褒めてあげてほしいと思っています。





今回、三苦小学校30周年を迎えるにあたり、佐伯修一郎校長先生とスクールソーシャルワーカーの猪山睦姫先生に色々お聞きしました。

三苦小学校の現場はどうですか？

今三苦小学校で取り組んでいることは、学校や地域の方への挨拶運動です。スクールガードの皆さんからも、以前に比べて子どもたちが挨拶するようになったという声を聞かせていただけて嬉しく思っています。

それから、今年三苦小学校は30周年を迎え、また校歌に「三つの苦から始まった、話の続き作ろうよ」と歌われていることもあり、「ありがとう 30周年 話の続き つくろうよ」のキャッチフレーズを作りました。子どもたちの中にありがとうが文化的に広がってきて、非常に子どもたちは落ち着いて頑張っています。

ただ、課題としては、学力の更なる向上と、欠席が多い児童が、少しでも登校できるようにすることです。

学力の更なる向上に関しては、担任と、少人数算数担当、学習指導員等が連携し、より丁寧な授業を心がけています。

欠席が多い児童に対しては、子どもの居場所としてステップルームの配置や、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーなど専門の職員と連携し、より細やかな対応をし、自立した子どもにと心がけています。本当に素直でみんないい子です。先生たちはみんなが大好きですし、子どもたちも先生が大好きです。

福岡市がスクールソーシャルワーカーを導入したのはいつ頃で、そのきっかけは何ですか？

文部科学省が2008年に「スクールソーシャルワーカー(SSW)活用事業」を開始しました。福岡市でも必要性を感じ、当時は、2名配置されました。その後、毎年増員を図り、現在では75名程、小・中学校、特別支援学校、夜間中学校、学びの多様な学校への配置となっています。

スクールソーシャルワーカーはどのようなことをされていますか？

子どもたちの生活背景にある様々な状況に対して福祉的な視点を活かし、本来子どもたちがもっている力を発揮し、安心安全に生活できるように支援活動をしています。

学校では、校内巡回をして子どもたちの様子をみて接することを心がけています。特に、先生方や関係機関、地域の方との連携は大事にしています。

担当されている学校は何校ですか？

三苦小学校、和白小学校、奈多小学校、和白中学校の4校です。

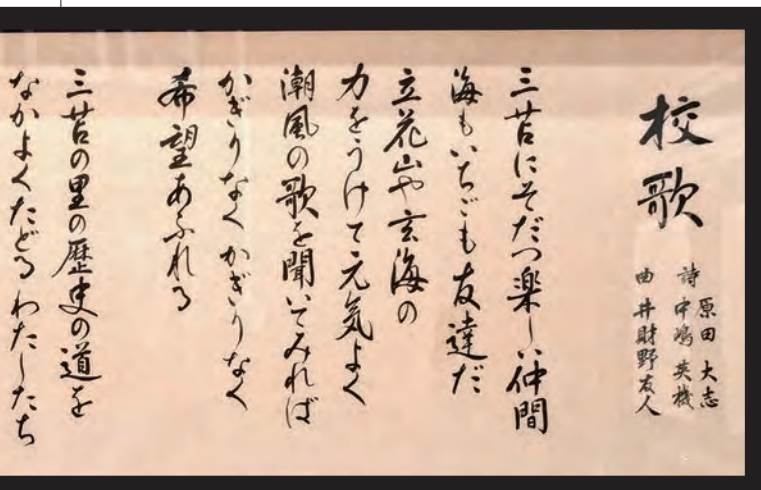
子どもや保護者の方との情報共有はどのようにされていますか？

三苦小学校では子どもたちに毎月1回、心のアンケートを実施しています。また、保護者の方にも年3回学校アンケートを行っています。

地域として何かできる事はありますか？

いつも見守っていただき、いっぱい声をかけてもらいありがとうございます。三苦校区というのはあたたかい人の繋がり町だと思います。地域の方々にゲストティーチャーとして、三苦の歴史や福岡大空襲の話や防災訓練等、色々な面で応援していただいています。そういった地域と学校が共に学ぶ30年でした。これからも新しい歴史が始まりますので、ご協力をお願いいたします。

お二人のお話から、教育現場では単に教科を教えるだけではなく、多岐にわたっての教育やサポートが行われていることが分かり、大変参考になりました。





多文化交流会「インドネシア、フィリピン」



4月13日(日)14時から多文化交流会「インドネシア、フィリピン」が開催されました。今回、三苦4丁目にある介護施設「みんなの家」で働かれているインドネシアの方3名(女性)とフィリピンの方1名(男性)、そして藤本施設長の5人を講師に迎えました。今回お招きした方々は、「みんなの家」で働きながら、施設の中の人だけでなく、趣味のバレーボールに参加する等、地域の人とも仲良く交流されています。

交流会は、自己紹介から始まり、インドネシアとフィリピンの国の紹介をしていただきました。

日本のことを尋ねると、「アニメ」「四季がある」「景色がきれい」等が挙がり、好きな食べ物は「ラーメン」「カレー」「クリームシチュー」などで、日本の食べ物すべて好きとの声もありました。一方で、宗教上の理由で肉など食べられないものがあり、専門のスーパーで材料を購入し、自炊しているとのことでした。また、生活上の困ったことでは、ゴミがいろいろと仕分けしなければならないのが難しいそうです。

藤本施設長のお話では、いまでは外国人の就労者も増え、皆さんは日本語や専門用語の習得等の困難を乗り越え技能実習生として心強い一員となっているそうです。

両国のあいさつを教えていただく等、和んだ雰囲気交流会となりました。



「繋ぐ手のひらで奏でる癒しの音色」

手笛奏者
なかしま拓さん



5月31日(土)に人権尊重推進協議会の演奏会で、手笛奏者なかしま拓さんによる人権コンサートを開催いたしました。

手笛とは、「両手を重ねてそこに息を吹き込むことで、音を出して演奏するもの」です。

まずは、アンドレ・ギャニオン『めぐり逢い』を演奏されると、淡く優美な音色が聞こえ、その場の空気感が一変し会場内からは驚きの声があがりました。とてもスケールの大きな曲で観客を手笛の世界にいざないました。

そして、手笛の吹きかたを説明され、会場全員で挑戦し、数名が音を出すことが出来ました。会場内は身近な道具として手笛の魅力に増々引き込まれていき、会場みんなで手笛演奏に合わせて『ふるさと』を合唱しました。

国内のみならず海外でも活躍されている中で、外国は多国籍民族(文化)、日本は単一民族(文化)で違うと思うと同時に、「多様性」の考え方も異なると感じるということです。例えば、日本では、「見た目なんかや育ってきた価値観などはいろいろ違うけれども、同じように見える、同じだよな」、外国の多くは「私は全然違うけれどもみんな違って認め合って、それでいいね」というのを、肌で感じるようです。

大学生の頃、春吉橋路上ライブでの体験から価値観や人生観が変わり、「人に何かを与えよう」と思っていたが、与えてもらったのは自分だった」と気づかれ、人生を手笛演奏家へと大きく変えたそうです。今後の活躍にとっても期待が高まります。

令和7年度 人権尊重推進協議会名簿

会長 佐竹 清隆		副会長 高橋 壽一		事務局長 堀 雅子		書記 山下 智子		監事 深野 雅子		本村 勝美		下川 京子	
柳 孝章		成富 学		田澤 義彦		堺 正英		○中西 輝雄		◎永吉 勝		研修部	
渡邊航一郎		稲葉 誠矢		松尾 洋子		堺 克代		渡邊 勝美		福永 栄		古庄 伸昌	
渡 恒一郎		川口 里美		出永 実		三久保 哲夫		高木 伸剛		善田 順一		江口 靖晴	
山本 憲明		山崎 友寛		堺 和広		○刑部 寛子		◎緒方 初子		笠木 健史		濱田 茂子	
○副部長		◎部長		二宮 幸治		酒瀬川 秀穂		藤野 想督		佐伯 修一郎		田口 三義	
顧問		堀 永徳		飯田 信義		山下 智子		飯田 信義		堀 徳昭		井上 満春	
堺 知行		廣報部		◎岩重 二郎		◎田澤 和子		◎山崎 信義		◎山崎 信義		◎山崎 信義	

あとがき

本年は、三苦小学校開校30周年であり、前号に引き続き「いま、三苦小学校では!」の欄を設けました。その中で、「ありがとう 30周年 話の続き つくろうよ」をキャッチフレーズにして「ありがとう」の文化を広げていかれるとのこと。

この「もやい」も、時を同じくして前号で50号を迎え、これを機にカラー化し新しい歴史が始まりました。今後とも、この三苦校区を「人権のまち」として、共に歩んで参りましょう。